

【別紙様式】

# 令和5年度教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	学 校 名
1 1	各務原高等学校

<p>学校教育目標</p>	<p>(1) 知育・徳育・体育の調和のとれた生徒を育成する。                  (2) 基礎的、基本的な知識と技能を身につけ、向上心があり、知性を備えた生徒を育成する。                  (3) 個性豊かで、自己を律するとともに、自他をかけがえのない存在として認識し、協調性のある生徒を育成する。                  (4) 心身ともに健康な体の基礎をつくり、生涯健康で健やかな生活が送れる生徒を育成する。</p>		
<p>スクール・ポリシー</p>	<p>『育てたい生徒像』                  グラデュエーション・ポリシー（GP）</p> <p>① 基礎的、基本的な知識と技能を身に付け、向上心や挑戦心をもつ、知性と創造性を備えた生徒                  ② 豊かな個性をもち、自己を律することができるとともに、自らや他者をかけがえのない存在として認識し、協調性や協同性とたくましさを備えた生徒                  ③ 自己の在り方生き方を考え、地域社会や国際社会の一員として活躍することができる見識と行動力を備えた生徒</p>	<p>『生徒をどう育てるか』                  カリキュラム・ポリシー（CP）</p> <p>① 学力の向上を図るため、習熟度別や少人数による指導、ICT等を活用した指導など個々に応じた「わかる」授業の実施                  ② 多様な進路志望に応じた、進路希望別クラス編成（特進クラスなど）、国際交流推進、部活動活性化（エキスパートクラブ）、高大連携等を包括したカリキュラムの編成と実施                  ③ 多様な価値観、課題解決、コミュニケーションを重視した総合的な探究の時間や生徒会行事、地域の人材資源を有効に活用した地域活動の実施</p>	<p>『どんな生徒を待っているか』                  アドミッション・ポリシー（AP）</p> <p>① 主体的な探究心と実践への意欲をもち、高い志を掲げて積極的に学習活動に取り組む生徒                  ② 真摯な態度で己を律することができ、思いやりの精神と仲間とともに切磋琢磨できる気概をもった生徒                  ③ 地域に愛着をもち、他者と協調し、協働しながら、社会に貢献しようとする意欲のある生徒</p>

<p>教育指導の重点 (今年度の具体的な重点目標)</p>	<p>重点目標の達成に必要な主な具体的取組、方策</p>	<p>達成度の判断、判定基準あるいは評価指標</p>
<p>1 学力の向上 【学習に対する意欲を喚起し、自ら学ぶ態度を育成する。】</p>	<p>① 生徒の基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、主体的・対話的で深い学びを実現するための教科指導となるよう、授業改善・校内研修を組織的・計画的に推進する。</p> <p>② 普通科単独校として、更なる活性化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年で、特進クラスを編制するなど、個々の力に対応した授業を展開し、進路実現を図る。</li> <li>・科学への探究心と論理的思考力を育成するとともに、社会感覚やコミュニケーション能力を向上させる。</li> <li>・読む力、書く力、聞く力、話す力を統合的に高める英語教育を行い、実践的なコミュニケーション能力を高める。</li> </ul> <p>③ 予習－授業－復習の学習習慣の確立を徹底し、家庭学習の定着を図る。</p> <p>④ 学習活動にICTを積極的に利用するとともに、各種検定を活用した学力向上を図る。</p> <p>⑤ 「ふるさと教育」に積極的に取り組む。地域資源を活用し、地域との交流を深め、地域課題を発見・解決する学習を推進する。</p>	<p>①各教科において、授業の工夫・改善が進んでいるか。</p> <p>②次の3つを中心とした評価を実施できているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月実施の「生徒及び保護者等を対象とするアンケート」。</li> <li>・前期末考査、後期中間考査で実施の生徒による授業評価。</li> <li>・11月初旬の「ふるさと教育週間」での、出席者に対する「アンケート」。</li> </ul> <p>③学習時間調査で「家庭学習時間2時間以上」の回答生徒数が増加したか。</p> <p>④個別に最適化された学びを進めるために、授業や家庭学習におけるタブレット等の電子教材等の活用度が高まったか。</p> <p>⑤2年生全員で、地域課題解決を検討し提案するプレゼンテーションを行うことができ、インターシップ等を積極的に生徒に推奨できたか。</p>
<p>2 人間性の向上 【秩序ある教育環境をつくり、他者の考えを尊重しつつ、自ら考え行動する自律の精神を養う。】</p>	<p>① あらゆる機会を通して、自他の生命・人格を尊重し、危険を未然に防ぐ能力を育てる。</p> <p>② 新生祭等の学校行事を生徒主体で運営し、自主性・自立性・協調性を養う。</p> <p>③ 全職員で「挨拶、身だしなみ・遅刻防止指導、清掃」に取り組み、生徒の規範意識を向上させる。</p> <p>④ 落ちついた雰囲気の中で学習ができるよう、学習環境を整備する。</p>	<p>①教育相談週間をはじめ、生徒との懇談を随時実施できたか。迷惑調査・いじめ調査を年5回実施できたか。</p> <p>②学校行事ごとにアンケートを実施できたか。</p> <p>③教科担任が授業開始時に身だしなみ確認をしたか。遅刻ゼロの生徒者数が10%増加したか。</p> <p>④厚生委員（会）による掃除点検ができたか。</p>

	⑤ 令和4年4月より成年年齢が18歳に引き下げられたことを踏まえ、すべての教育活動における主権者教育を推進する。	⑤ 地歴公民科や家庭科を中心とした授業や講演会を通して主権者教育が実施できたか。
3 体力の向上 【心身の調和的発達を図る基礎作りを充実する。】	① 心身とも健康な体作りのためのたくましさ、自己管理能力の育成を図る。 ② 全国レベルの結果を目指す部や生涯スポーツ的な要素の育成を目指す部など、生徒のニーズに応じた新たな部活動を実践し、活性化を図る。	① 新体力診断テストの結果を向上させることができたか。また、欠席者数が前年度に比べて10%減少したか。 ② 部活動加入率が80%に達したか。また、県大会での成績が向上したか。
4 働き方改革の推進	① 長時間勤務と多忙化の解消に向け、業務内容の不断の見直しを行う。 ② ハラスメントとメンタル不調を速やかに察知し、解決を図る。	① 出退勤時間を確実に記録できたか、また、ICT機器等を活用し、個人の業務を減らせたか。 ② 関係者一人で抱え込まないように、管理職や各種相談窓口で相談できる雰囲気及び情報提供ができたか。